

人工呼吸器について

人工呼吸器を装着された方が、在宅療養されるときは、人工呼吸器が病院から貸し出されます。病院（診療所）と人工呼吸器会社がレンタル契約を結びます。その費用は社会保険の診療報酬から出ますので、患者さんの負担は呼吸器本体についてはありません。ただし病院が衛生材料費などを患者さんに請求する例があります。人工呼吸器の種類は複数ありますが、医療機器ですので医師と相談して決めていきます。

姫路市香寺町から、年に一度、近畿ブロックの総会に参加します。

温顔のこの顔、この眉毛で、多くのヘルパーさん、看護師さんたちにALSを理解してもらってきました。——井上尚武さん



人工呼吸器の選択について

告知を受けた後、担当の医師から、「人工呼吸器をつけるかどうか決めてください」といわれることがあります。

人工呼吸器の選択は患者さん1人でするわけにはいきません。介護する人（家族）ともしっかり話し合いが必要です。人工呼吸器をつけた患者さんの中には、「楽になった」「生きていてよかった」という意見を言われる方もいますが、「呼吸器を装着してもつらい」「装着しなければよかった」といわれる方もいます。

→あなたが呼吸器をつけて長生きすることを喜んでくれる人はいますか、介護を中心になって担ってくれる人はいますか。介護ができる家族がいて、家族が積極的に装着を希望する場合は、人工呼吸器装着の条件はあると思われます。（経済的な問題は二の次として）

→家族が賛成しない、あるいは患者さん本人が決めればよいという場合は、なかなか困難です。人工呼吸器を装着して長期入院できる病院は、近畿圏にはほとんどありません。都市

部で長期入院できる国公立病院は皆無です。個人病院、老人病院を探すしかなく、経済負担があります。→呼吸器を選択しない生き方もあります。ALS患者さんの7割は呼吸器を装着せず、3割が呼吸器を装着しています。選択しない場合も、家族（介護者）には大きな仕事があります。良い状態で毎日過ごしていけるように、患者さんとともに工夫しながら暮らしていくことです。

呼吸器を選択しない場合については、呼吸苦を緩和するために、在宅酸素療法や睡眠剤・安定剤、モルヒネの処方などが考えられますが、主治医と相談されて、体調に合わせて利用していきます。